

令和7年度 第2回羽島市地域公共交通協議会 議事録

日 時	令和7年6月27日(金) 午後2時00分から午後3時00分まで	
場 所	羽島市役所3階 301会議室	
出席者	会長代理 生活環境部長	加藤 光彦
	副会長 (大)東海国立大学機構岐阜大学地域科学部地域政策学科教授	應 江黔
委員	名阪近鉄バス(株)乗合バス営業部長	山田 規光久
委員	岐阜羽島バス・タクシー(株)代表取締役	安田 篤史
		(代理出席:入山 能光)
委員	スイトトラベル(株)自家用管理部長	西川 勝則
委員	東海旅客鉄道(株)岐阜羽島駅長	野上 重和
委員	名古屋鉄道(株)部地域連携部交通サービス担当課長	高井 勇輔
		(代理出席:石樽 誠)
委員	名阪近鉄バス労働組合執行委員長	加藤 浩司
委員	羽島市自治委員会理事	今井田 清一
委員	羽島市老人クラブ連合会女性部長	村上 由紀子
委員	公募委員	植村 佳代
委員	公募委員	豊島 裕香
委員	岐阜運輸支局首席運輸企画専門官	下平 真一郎
		(代理出席:大石 悟)
委員	岐阜県バス協会専務理事	木村 治史
委員	岐阜土木事務所施設管理課長	児玉 忠哲
委員	岐阜羽島警察署交通課長	柘植 清一
委員	岐阜県都市建築部都市公園・交通局 公共交通課	大脇 哲也
		(代理出席:市橋 ますみ)
委員	羽島市健幸福祉部長	三輪 弘司
委員	羽島市建設部長	藤井 義郎
事務局	生活安全課長	鈴木 巨祥
事務局	同課主幹	中島 文誠
事務局	同課係長	清水 孝明

要 旨	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 報告事項</p> <p>報第1号 地域公共交通協議会監事の指名 (事務局) 本協議会要綱に基づき、木村委員、村上委員を監事とする。</p> <p>報第2号 コミュニティバスの利用状況について</p> <p>報第3号 地域公共交通計画の目標達成状況について</p> <p>報第4号 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業二次評価について (事務局) コミュニティバスの利用状況について(資料1)説明 地域公共交通計画の目標達成状況(資料2)について説明 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業二次評価(資料3)について説明</p> <p>(質問意見なし)</p> <p>報第5号 デマンド型交通に関する検証結果について</p> <p>報第6号 令和7年度以降の事業実施予定について (事務局) デマンド型交通に関する検証結果について(資料4-1)(資料4-2)説明 令和7年度以降の事業実施予定について(資料5)説明</p> <p>(委員) mobiは1割のヘビーユーザーが8割の利用を占めているとのことだが、運行開始前にこのようなことは想定されていたのか。</p> <p>(事務局) mobiからは事前に「30日間乗り放題プラン」に力を入れており、乗り放題が多くなるという説明は受けていた。mobiの営業スタイルに対して市からお願いすることはしていない。今後、デマンド型交通の導入を検討することがあれば、乗り放題は少数の方に公費を投入することになるため、慎重な検討が必要と考えている。</p> <p>(委員) 「無料」の利用者というのは、どのような方か。</p> <p>(事務局) mobiがキャンペーンで無料券を配布したり、イベント開催時の無料乗車を実施したりしており、そのような方の利用が該当する。</p> <p>4 協議事項</p> <p>議第1号 令和6年度羽島市地域公共交通協議会事業報告</p>
-----	--

議第 2 号 令和 6 年度羽島市地域公共交通協議会収支決算

(事務局)

令和 6 年度羽島市地域公共交通協議会事業報告 (資料 6) について説明

令和 6 年度羽島市地域公共交通協議会収支決算報告 (資料 7) (資料 8) について説明

(羽島市老人クラブ連合会 村上委員)

決算審査を実施したところ、適正に処理されていることを確認した。

(令和 6 年度羽島市地域公共交通協議会事業報告、令和 6 年度羽島市地域公共交通協議会収支決算について承認された)

議第 3 号 令和 8 年度羽島市地域公共交通計画「別紙」(案)について

(事務局)

令和 8 年度羽島市地域公共交通計画「別紙」(案)について (資料 9) 説明

(質問意見なし)

(令和 8 年度羽島市地域公共交通計画「別紙」(案)について承認された)

5 その他

(副会長)

公共交通の利用状況をみると、新型コロナウイルスの影響は収束しつつある印象を受ける。今後は、名鉄や名阪近鉄バスを含めた地域全体の公共交通の安定的な維持と発展が重要である。

羽島市では、公共交通の担い手不足や、自家用車への依存度の高さによりバスの利用が進まないといった課題を踏まえ、現行の計画を策定している。そのうえで、コミュニティバスをはじめとする公共交通を効率的に運行するための方策を模索している。一方、他地域ではすでに公共交通の維持が困難な状況に直面しており、公共交通の縮小や日本版ライドシェアの導入を検討せざるを得ない地域もある。羽島市においては、名鉄や新幹線といった交通基盤が整っているため、検討にあたって一定の時間的猶予があり、有利な状況にあるといえる。今後は、各地の状況も参考にしつつ、地域の実情に応じた効率的な運行方式を取り入れていく必要がある。

また、コミュニティバスについても、今後段階的に見直しを進めていくとのことであるが、住民のニーズを的確に把握しながら、より効率的な運用が求められる。事業者と行政が連携し、当面の課題解決に向けて着実に取り組むことが重要である。

(事務局)

今回は、10 月に協議を予定している。

6 閉会

以上